

が提案するリスクマネジメント

カメラ映像で転倒を検知し 発見遅れ・事故のリスクを回避



ただ転倒しただけと以为っていても打ち所が悪かったり、対応が遅れると死亡してしまう場合があります。

また、スタッフも頻繁に行かないような侵入禁止エリアへ、間違えて入る人・度胸試しや犯罪で故意に入る人は必ずいますが、そういった場所で事件や事故が起きた場合には発見・発覚も遅れてしまいます。

従来の防犯カメラの動的検知機能の場合、関係ないものまで動いただけで通知になってしまうので最新AIと組合せ、人を通知できるシステムを導入し、備えることが必要です。

これらは人員が少なくて発見が遅れたものも多くございます 防犯カメラを設置し、リスクマネジメントを行うのが必要です

転倒や発見遅れなどによる事件・事故の例

転倒や発見遅れで特に多いのが工場・倉庫などで1人で作業していた場合です。

これらは管理者が防犯カメラで通知が来るように設定しておくことでリスクを下げるにつなげられます。

事例	詳細
フォークリフトが転倒し 運転者が下敷きとなった事故	朝礼開始前に発生した事故で、災害発生時の被災者の作業状況を目撃した者はいない。 フォークリフトがバランスを崩して転倒し、運転席から投げ出された被災者が下敷きになったと推定される。
誘導者を配置していない 1人での作業で下敷き事故	被災者1人でドラック・ショベルを使用して事務所裏の片付けを実施。作業中、突然運転席出口を下にした状態で横転した。大きな音を聞き、駆けつけたところ下敷きになっていたのを発見した。
カウンター下にある 電源コードに足が引っかかり転倒骨折	事業場規模が1〜4人の店舗。受付カウンターにて作業中、カウンターの下にある電源コードに足をひっかけ、転倒し手首を骨折した。
倉庫でフォークリフトから降りる時、 足を滑らせて転倒・死亡	倉庫内を見回りに来た従業員が、倉庫入口でフォークリフトの支柱につかまり朦朧として立っている被災者を発見した。 出血していたため、ただちに救急車を手配し病院に搬送。手術2日後、死亡した。
飲食店の厨房の濡れた床で 転倒し死亡した事故	発見時は意識があり出血はなかった。病院に行くよう促すも「大丈夫」との返答がありその後、早退。 帰宅後に頭痛を訴えたため家族が救急車を手配し、病院に搬送され手術も行われたが翌日に死亡した。

引用元：厚生労働省 労働災害事例 [HTTPS://ANZENINFO.MHLW.GO.JP/](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/)

万が一
死亡事故が
発生した場合



賠償金
(例／目安)

逸失利益 ————— 約8,250万円
葬祭費用 ————— 約150万円
慰謝料など ————— 約2,800万円

合計 **1億1,200万円**

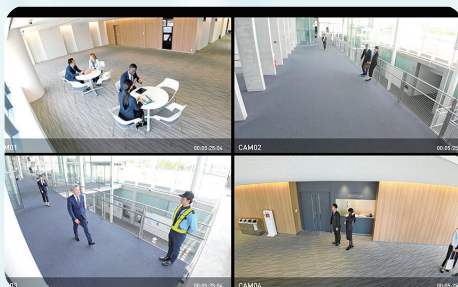
▶▶▶ 事故を起こさない・迅速に気づかなければいけません

侵入を検知



危険な場所などをエリア・ライン指定し、作業員が侵入した際に即通知・早期発見。

証拠映像記録



映像を残す事でもしもの際の証拠用映像や、ヒヤリハット案件学習用として活用可能。

転倒を検知



転倒した際の検知機能もつけることで、危険とは思っていなかった場所での事故も対応。